

海遊体験への取り組み

南部町漁業協同組合青年部
向井 一二

1 地域の概要

南部町は、和歌山県の中央部に位置し、紀伊水道に面した気候温暖な町である。また、海岸線は田辺南部県立自然公園に指定され、千里の浜を中心とした砂浜はアカウミガメの産卵場としても有名である。

2 漁業の概要

南部町漁業協同組合は、昭和40年に南部町内の堺浦、南部浦、岩代の3つの漁協が合併して現在に至っている。組合員数は正組合員182名(平成13年現在)、漁業種類は、まき網、船曳網、敷網、刺網、延縄、そして一本釣り等多種の漁業を営んでおり、季節あるいは漁況に応じて漁業種類を切り替える複合経営体が多く、このことが当漁協の特徴となっている。

平成13年度の水揚げは漁獲量で約2,500トン、金額にして約8億5千万円となっている。

3 青年部の概要

南部町漁協青年部は、漁業での安定した生活、組合活動への積極的な参加、他業種との交流、後継者づくりを目的として、平成4年に30歳までの組合員を対象に設立された。

現在、部員数は15名で平均年齢は34歳、漁業種類もまき網、敷網、刺網、一本釣り、延縄と様々である。定年制は設けず、自主的な組織とし、「M. F. C.」(ミナベ・フィッシャーメンズ・クラブ)と命名した。

取り組みとしては、栽培漁業促進の一環として、毎年ヒラメの中間育成と稚魚放流を行っているほか、ヒオウギ養殖も手がけている。また、南部町観光協会とタイ・アップした形で棒受け網漁業の操業を主とした「観光漁り火漁」に取り組んでいるところである。更に、今年度からは「ほんまもん体験」にも参加し、イセエビ刺網漁の漁業体験も行った。

4 研究・実践活動課題選定の動機

漁業をとりまく環境は年々厳しさを増し、私たちの地域においても、高齢化が進行する中で、漁業資源の減少や魚価の低迷が続き、大変深刻な問題となっている。

そのような中、14年度に都市と漁村の交流促進をめざす「海遊モデル事業(県単独事業)」がスタートした。漁協・組合員の将来を見据えたとき、漁業収入だけでなく多角的に収入を確保する必要性を感じていたところでもあり、皆で県の支援事業を活用するかどうかを議論した。その結果、一般の方々に磯を開放して和歌山の海岸の良さを楽しんでもらいながら、漁業という産業を理解してもらおう新しいタイプの観光として、地域の漁業資源を活かすことを試みるのも必要ではないか、という結論に至った。そこで青年部としても、この事業に積極的に参加することとした。

5 研究・実践活動の状況及び成果

実行にあたっては、青年部・婦人部を含む海遊体験実行委員会を結成して、イベントの運営に

必要な事項を検討・決定した。イベントの運営については、体験メニュー全体に通じた世話人を設けて円滑な運営に努めることとし、青年部・婦人部を含む堺地先の組合員約130名を4班に分けて対応することにした。また、みなべ観光協会にご協力いただき、南部町の産品をお土産として参加者に配布することができた。

舞台となる会場は堺漁港に隣接した森の鼻海岸とし、7月17、18日にかけて会場付近の清掃とテントなど必要な施設の設営を行なった。テントやバーベキューに使用するコンロやイスなどは、みんなで工夫して手作りで制作した。そして、7月20日を皮切りに8月10、11日を除いた毎週土・日曜日を開催日として、合計10回の海遊体験を実施することとなった。

体験メニューとその内容を以下に記す。

講習(磯根資源学習): 漁業権や漁業のことを理解してもらうことと、磯の生物や危険な生物を知ってもらうために、講習を受けてもらった。講師は県の水産試験場増養殖研究所から講師を派遣してもらい、説明をお願いした。

磯遊び(貝類・ウニの採捕体験): 磯遊びは、ウニや貝類の採捕をしてもらった。貝類については生息している種類や量が体験に訪れる人の数に比べ少ない可能性もあったので、地先の少し深いところでとれるマガキガイをあらかじめ蒔いておいた。

漁師料理体験: 漁師料理体験として、スルメイカのさばき方について、参加者の目の前で包丁の入れ方などを説明し、各人で実際にさばいてもらった。他にウツボやタチウオの唐揚げ、マガキガイやタコの塩茹でなど、その時々で手に入る魚介類を用いた料理などをふるまった。

漁業操業体験(ガシラ延縄): 漁業体験として、ガシラ(カサゴ)の延縄漁の体験を行った。これは、禁漁区を一時的に開放し、あらかじめ早朝に仕掛けてあった延縄を、参加者が数隻の漁船に分乗して引き上げるというものである。ガシラを始め、他にウツボなどがかかっている、獲物が引き上げられるたびに参加者は歓声をあげていた。また、天候の都合で漁業体験のできないときもあったが、その時は漁船に乗って鹿島周辺をクルージングして楽しんでもらった。

体験メニューは上に述べた4つで行った。メニューの順番についてはその日の潮時や天候に合わせて変更し、柔軟に対応した。

6 波及効果

体験終了時にお願いしたアンケートを見てみると、230組622人の参加があり、当初予定していた500人を上回る盛況であった。県外からの参加者は104名で全体の16.7%であった。また、参加者の内で、非常に良かったと64%の方が回答し、良かったは33%で全体の97%の方々に満足していただけた。また、体験メニューについては貝類・ウニ採取体験(磯遊び)の人气が最も高く、次いでガシラ延縄体験の人气が高い結果となった。

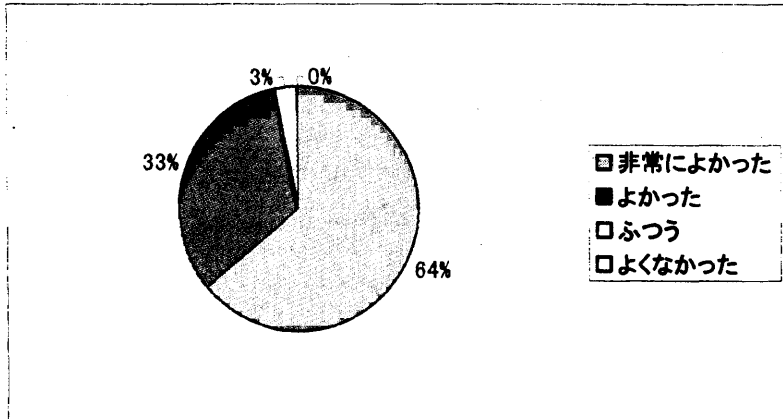
海遊体験の効果としては、大勢の方々が都市部から訪れて、和歌山の美しい海岸で遊びながら、南部町の漁業について理解を深めてもらうことができたことである。また、我々漁業者も地域外の人々と触れあうことで、新しい発見があったり、リフレッシュして本来の漁業という仕事に取り組むことができた。

7 今後の課題や計画と問題点

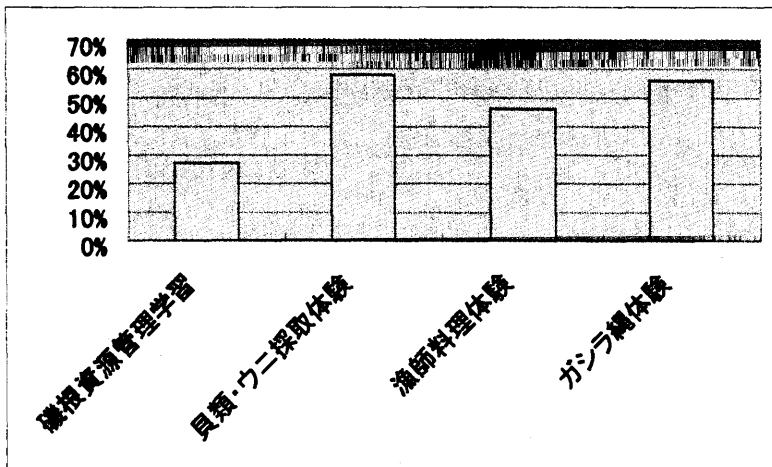
問題点としては、初めての試みということで、いろいろと現場で対応の不備などがあった。例えば、体験メニューの順番の組み方や段取りの仕方などであるが、これについては、天候や潮時などを考えて柔軟に組み替えるなどして、二度三度と回を重ねるにつれてかなり改善された。今後同様のイベントをする際には、今回の経験を活かして改善して行きたいと考えている。

また、今回の事業が、組合自営事業として今後継続して取り組んで行くことができるか、収支の状況をよく分析検討し、その可能性を見極めていきたいと考えている。

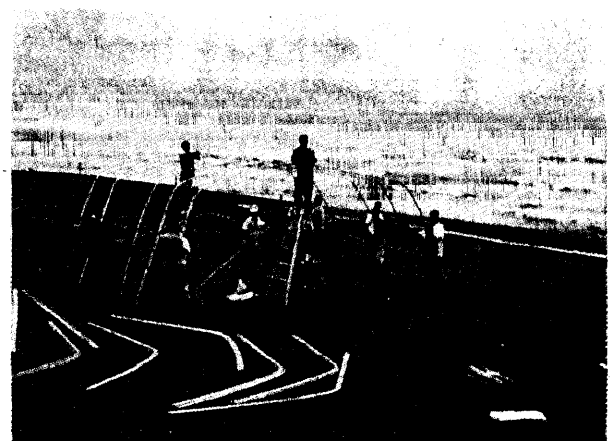
海遊体験に参加してよかったですか



よかった体験は何ですか



体験会場の清掃



テントの設営



ガシラ縄漁体験



漁師料理体験



貝類・ウニ採取体験